森 浩貴 星野 圭亮 閻莉玲

保田 義則 嵩下 奈都美

主担当教員:中鉢 欣秀 教授 副担当教員:追川修一教授 黄 緒平 助教

スクラムとリーンスタートアップに基づくプロダクト開発の実践

目的

スクラムとリーンスタートアップの理論に基づき 実務に活かせるようなプロダクト開発手法を経験知として獲得すること

体制

指導教員とメンバー

指導教員

中鉢 欣秀(主担当) 追川 修一(副担当) 黄 緒平(副担当)

メンバー

保田義則 森浩貴 星野圭亮 嵩下奈都美 閻莉玲

スクラム体制

プロダクト オーナー

プロダクト毎に 固定する

スクラム マスター

1スプリント毎に 交代する

222

開発者

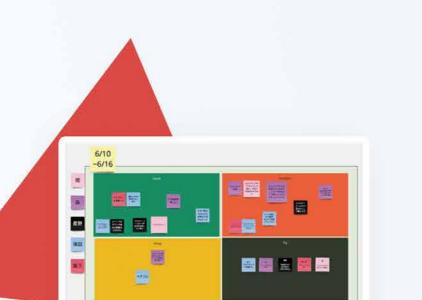
開発者として一つの プロダクトに注力する PBL体制

222 22 技術支援中心 実装中心

方向性決定 詳細決定 自己組織化できる方法を確立する

活動

スクラム



レトロスペクティブ



> デイリースクラム

> スプリントプランニング



リーンスタートアップ

リーンスタートアップ理論に基づきプロダクトの方向性と機能内容を決定。 Problem -> Solution -> Product -> Market と段階的に実装。



1.アイディア出し(20件) 2.顧客インタビュー(7件)



1.Mock作成



1.MVP作成 2.顧客インタビュー(3件) 2.顧客インタビュー(6件)



1.プロダクト開発 2.CPA改善 3.広告費用投下

4.バイラル係数改善

5.LTV改善

東京23区のベビーカーが入りやすいカフェ・レストランが



成果



日本ソフトウェア科学会第 38 回大会(2021 年度)講演論文 「アジャイル開発人材育成のための PBL 型教育における プラクティス:2021 年度プロジェクトの事例」